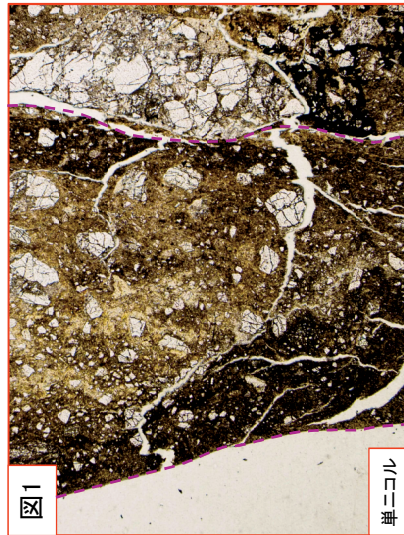
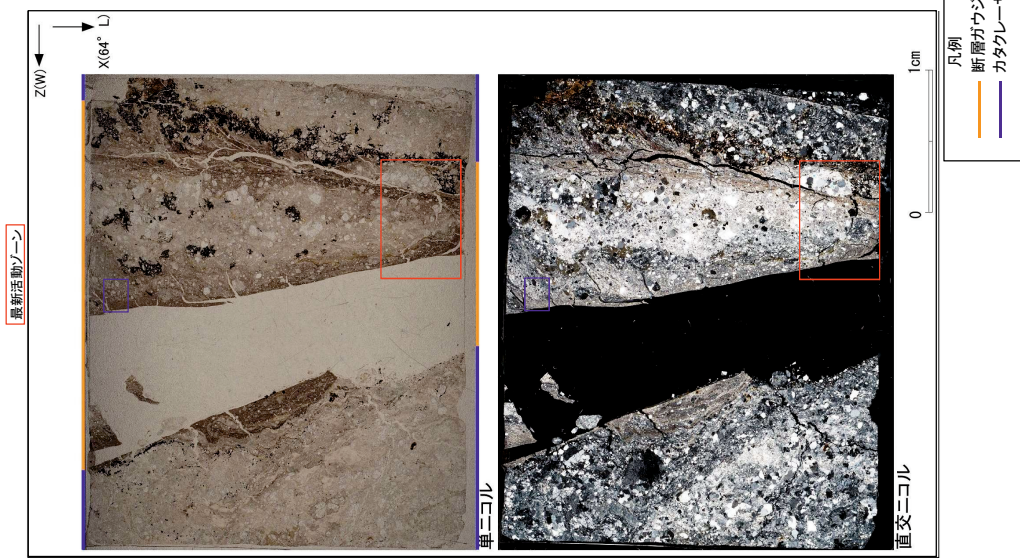
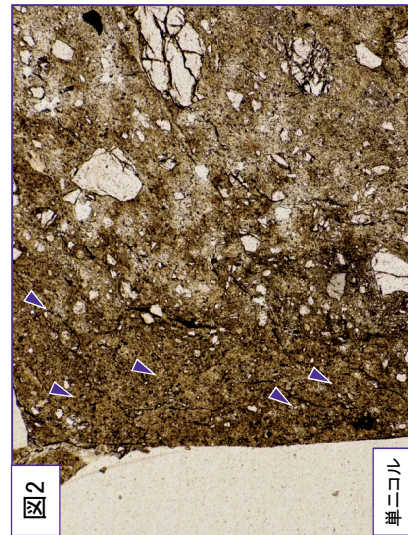




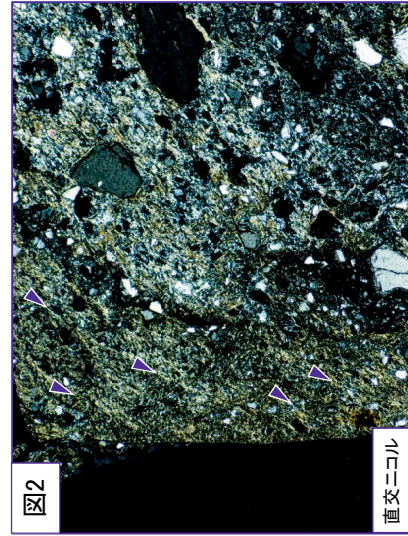
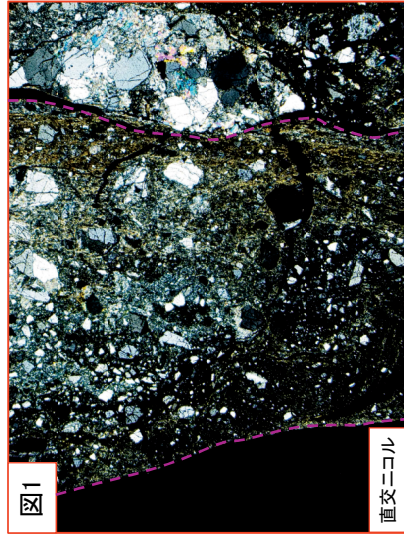
- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。(図2)
- 基質は粘土鉱物を主体とする。(図2)
- 粘土状部の分布は帯状で直線的である。(図1)
- 岩片は少ない。(図2)
- 丸みを帯びている岩片が多い。(図2)



破線は帯状で直線的な粘土状部の範囲を示す



青三角の方向は粘土鉱物の配列方向を示す



第7.4.4.345図 (4) 破碎部性状 H24-D1-5 深度8.51~8.71m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(2/3))

- ・最新活動ゾーンには、以下の特徴が認められる。
- 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。(図3)



赤矢印は岩片の粒界を横断する破断面を示す

(肉眼観察結果 深度8.70m)

- 肉眼観察では、粘土状部は、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

(観察位置)

- 薄片試料は、肉眼観察により認定した断層面  $\alpha$  に沿って最も細粒化した部分を含み、人為的な試料の乱れの無い部分で作製した。

※断層面  $\alpha$  は最新活動面

(薄片観察結果)

- 薄片観察では、以下の通り断層ガウジの特徴が認められた。
  - せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。
  - 基質は粘土鉱物を主体とする。
  - 粘土状部の分布は帯状で直線的である。
  - 岩片は少ない。
  - 丸みを帯びている岩片が多い。
- 薄片観察では、以下の通りカタクレーサイトの特徴が認められた。
  - 岩片の粒界を横断する破断面が認められる。

最新活動ゾーンには、断層ガウジとカタクレーサイトの特徴が認められるが、カタクレーサイトの特徴は、カタクレーサイトが断層ガウジに取り込まれたものと考えられる。  
 以上より、薄片観察結果では、最新活動ゾーンの細粒部を断層ガウジであると判断した。



(総合評価)

当該破砕部については、以下の理由から断層ガウジであると評価した。

- 肉眼観察で確認された粘土状部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。
- 薄片観察で確認された最新活動ゾーンの細粒部は、その特徴から断層ガウジであると判断した。

断層ガウジ・断層角礫の有無	断層ガウジ・断層角礫の幅[cm]	明瞭なせん断構造・変形構造*
有	0.6	有

\*:断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「有」の場合は肉眼観察結果を記載。断層岩区分の総合評価で断層ガウジ・断層角礫の有無が「無」の場合は「-」と記載して括弧内に肉眼観察結果を記載。

・深度10.19～10.20mの「粘土質礫状」と記載の箇所については、軟質で、含まれる細粒部は網目状に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。



・深度10.20～10.21mの「粘土状」と記載の箇所については、軟質で、細粒部の連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

ボーリング柱状図

- 10.19～10.21m：破砕部（H-3d破砕帯）
- 10.19～10.20m：粘土質礫状部（Hb）  
上端27°で直線的にシャープに、下端36°でやや波打って連続。径1～3mmの石英粒と径5mm前後の粘土化した花崗斑岩の岩片を含む。軟質。灰白色を呈する。幅6～10mm。
- 10.20～10.21m：粘土状部（Hc-1）  
上端36°でやや波打って、下端40°で直線的にシャープに連続。径1mm前後の石英粒を若干含む。軟質。灰白～上部側でにぶい黄色を呈する。幅4～6mm。

コア写真



凡例  
 断層ガウジ  
 破砕部範囲※  
 ※：写真上は白色で記載

連続性及び直線性が良い細粒部



青砕部拡大  
 0 5 cm

細粒部が網目状に分布する

・薄片は断層面  $\alpha$  及び細粒化が進んだ範囲を含むように作製した。

※断層面  $\alpha$  は最新活動面

コア写真



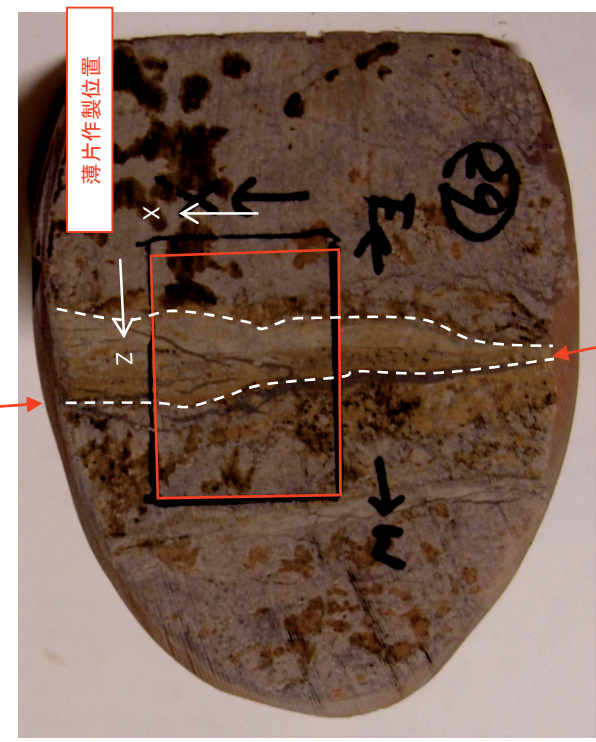
凡例

断層ガウジ → 断層面

破砕部範囲※

※:写真上は白色で記載

薄片作製位置写真



凡例

断層面

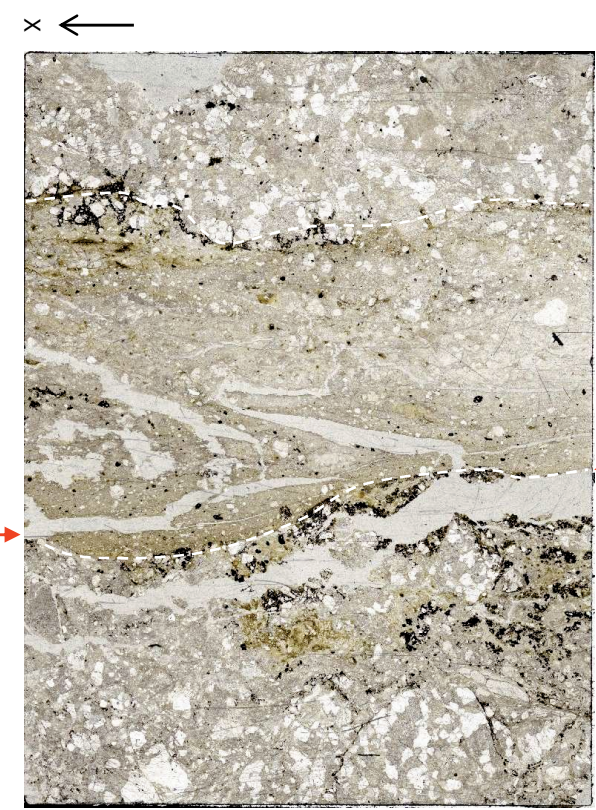
肉眼観察で相対的に細粒化が進んだ範囲※

※:写真上は白色又は黒色で記載

X:条線方向(下向きを正とする)

Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

薄片全景写真(単ニコル)



X:条線方向(下向きを正とする)

Z:断層面の法線方向(上盤側を正とする)

第7.4.4.346図 (2) 破砕部性状 H24-D1-5 深度10.19~10.21m (薄片作製位置)